┌□■━━■□┐
ＣＴＣ教育サービス　News&Topics　　　　　　　　　2012年3月号
└□■━━■□┘
発行元：ＣＴＣ教育サービス

目次

コ｜ー｜ス｜情｜報

◆◇　危険予知（KY）研修　定期コース開催決定！　◇◆

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇
◇◇ 3月21日版朝日新聞夕刊一面に、弊社KY研修の記事が掲載されました！◇◇
◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

このたび、ＣＴＣ教育サービスでは業界初のIT企業向けKY研修を定期コースとしてご提供することとなりました。

「KY研修」は、中央労働災害防止協会の協力のもと、これまでＣＴＣグループエンジニア向けに実施していた研修カリキュラム「KY研修」をベースに開発した独自プログラムです。

システムトラブルの原因の約8割は、システム運用におけるヒューマンエラーだと言われています。昨今、クラウドサービスの拡充により、クラウドを支えるインフラシステムの運用は複雑化しており、万が一システムトラブルが発生すると、その影響は今まで以上に甚大になる可能性が懸念されています。

KY（危険予知）とは、製造業や建設業の現場等において広く取り入れられている労働災害防止のための概念です。ＣＴＣグループでは、ITシステムを「社会を支える重要インフラ」の一つと捉え、ITシステムの運用現場にKYの概念を取り入れることで人的ミスによるシステムトラブル撲滅を目指すHEZ（ヒューマンエラーゼロ）活動に、1999年から取り組んでいます。
社内向けKY研修はこのHEZ活動の啓蒙・教育を目的に、ＣＴＣＴ全従業員及びＣＴＣのエンジニアを対象に実施している社内研修で、2010年度までに延べ13,000名の従業員が受講しています。

KY研修には、以下の3つのコースをご用意しております。

・基礎コース：現場で作業する一般社員向けの基礎コースです。
　コース日数：1日間
　費用：¥36,750(税込み）/1人

・フォローアップコース：基礎コースを受講済みの方向けのコースです。
　コース日数：1日間
　費用：¥36,750（税込み）/1人

・マネージャーコース：管理者として、部署の課題を発見する感性を磨きます。
　コース日数：1日間
　費用：¥52,500（税込み）/1人

日程・詳細はこちら
http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=673&m=8337&v=e739fef2

トピック

『 Inst. Tech View ～第11回“標的型攻撃”～ 』

今回のInst. Tech Viewは、最近注目を集めている「標的型攻撃」についての話題です。

最近、雑誌やニュースなどで「標的型攻撃」という言葉を目にする機会が増えました。

標的型攻撃とは、金銭や知的財産権等の重要情報の不正取得を目的として、特定の企業や組織に対して行われるサイバー攻撃です。

標的型攻撃は以前から存在しましたが、近年、複数の攻撃手法を組み合わせ、特定の標的を執拗に攻撃するケースが増えており、被害に遭う企業や組織が後を絶ちません。

ちなみに、欧米では、こうした新しいタイプの標的型攻撃を
##「APT（Advanced Persistent Threat）」と呼んでいます。

例えば、海外では原子力施設が攻撃され、内部で使用していた制御ソフトウェアが乗っ取られるという事件が起こりました。

また、日本では防衛産業企業に対する標的型攻撃により、内部情報が流出するという事件が起こりました。

「セキュリティ対策を行っている（であろう）組織が、なぜ被害に遭うのか？」疑問に思った方もいらっしゃるのではないでしょうか。

以下に紹介する標的型攻撃の特徴に、この問いに対する答えがあります。

典型的な標的型攻撃（APT）は、以下のような流れで行われます。

（1）標的型メールの送信
関係者に成りすまして、標的組織の人間に標的型メールを送信する。
このメールにはセキュリティホールを悪用するマルウェア（悪意のあるソフトウェア）が添付されており、受信者が添付ファイルを開封すると、PCがマルウェアに感染する。
（標的型メールの代わりに、USBメモリでマルウェア感染させる場合もある。）

（2）マルウェアの進化・拡散
マルウェアは外部の指令サーバと通信を行い、新たなマルウェアを呼び込んだり、内部ネットワークに拡散し、感染範囲を広げたりする。

（3）不正行為の実行
マルウェアは指令サーバ（攻撃者）の指示に従い、内部システムの不正操作や、収集した機密情報の送信を行う。

注目すべきは（1）の部分です。

従来のサイバー攻撃では、インターネットサーバやデータベースサーバなど、
一部のコンピュータが攻撃対象になることが多かったのですが、標的型攻撃では、
組織内の全ての人間のPCが攻撃対象となります。
セキュリティ意識の低い社員のPCが狙われてしまった場合、これを防ぐことは
難しいでしょう。

さらに、（2）（3）にも注目すべき点があります。

内部ネットワークに侵入したマルウェアは、自ら外部の指令サーバや攻撃者のPC
と通信を行い、指示に従って不正な行為を実行します。

内部ネットワークと外部ネットワーク（インターネット）との境界には、一般的に
ファイアウォールやIPS等が設置されていますが、これらのセキュリティデバイス
は内部から開始された通信に関してはチェックが甘いことが多く、マルウェアと
外部の指令サーバ、攻撃者PCの通信を許可してしまう可能性があります。

標的型攻撃のような新しいタイプの攻撃を防ぐためには、従来型のセキュリティ
対策だけでは不十分だということがお分かりいただけたかと思います。

一人ひとりが標的型攻撃の脅威や特徴をしっかりと認識し、当事者意識を持つ
ことがセキュリティ対策の第一歩です。

現在、ＣＴＣテクノロジーでは、標的型攻撃をはじめとする様々な攻撃手法の
仕組みや、セキュリティ対策について学習するトレーニングコースを開発中です。
このコースの詳細情報（カリキュラムや日程等）については、弊社のホームページ
にて公開しておりますので、是非ご確認ください。

コースの詳細情報はこちら：
http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=674&m=8337&v=d621c985

コラム

◆◇　『スーパーエンジニアの独り言　第9回“聖闘士への指南書”』　◇◆

「黄金聖闘士（ゴールドセイント）」というのをご存知でしょうか？

日本発、フランス、ブラジル等、海外も席巻した「聖闘士星矢」の用語です。
（実を言うと、最近知りまして車田正美原作本を全巻読ませて頂きました。）
拳闘で戦う剣闘士、つまり拳闘士の名称が聖闘士であり、その最強の聖闘士と
認定されるのが黄金聖闘士です。最強防具である黄金聖衣（ゴールドクロス）
を纏い、黄道十二宮の星座の名を冠する事が許されるという最強の証です。
聖闘士はその力量で厳密に階級分けされており、その差は千倍以上に至る
ということです。

聖衣の種別（階級）
◇ 青銅聖闘士（ブロンズセイント）
◆ 白銀聖闘士（シルバーセイント）
◇ 黄金聖闘士（ゴールドセイント）

さて、先日「Ruby 公式資格教科書」が技術評論社から刊行されました。
副題が「Ruby技術者認定試験 Silver/Gold対応」とされています。
この出版されたばかりの本書を電車で吊り革にぶら下がり熱心に読んでいる方

を目の当たりにして、Rubyへの注目の高まりに気づかされました。
第三次Rubyブームの発芽なのかもしれません。

本書は、単なる資格対策本ではなく「教科書」です。
これからRubyを勉強される方には勿論の事、既にお使いでご存知の方も一度、
知識の整理整頓、棚卸しのためにお役に立てて頂ければと思います。一例として
スレッドの排他制御のためのミューテックスロックにまで解説があります。
お薦めの一冊ですので、書店にて是非一度お手に取られてみては如何でしょうか。

昨年12月16日には、一足も二足も早い出版記念セミナーが弊社のラーニング
センターで開催され、著者の1人である増井さんをスピーカーにお招きして
多くの方々からご好評を頂きました。
（セミナー資料は、弊社教育サービスホームページにて公開しております。）
著者の皆様は、今後も各所で出版セミナーの開催が予定されているようです。

ところで冒頭での話題ですが、一部のRubyist(Rubyの愛好者)達の中では、
Gold認定取得者を「黄金聖闘士」と呼ぶことがあるようです。
認定はまさにRubyの力量を示すものであり、力の差が千倍にも及ぶという例えも
昨今のプログラマーの現実と照らし合わせても、あながち間違いではないでしょう。
この認定資格を「杖」として目標である山頂を目指す事でご自身の
能力増強を図る事も出来るのではと思います。これを機に、無名の聖闘士たち
もご自身の力量を周囲に認知させるために聖衣を纏うのも一興かと思います。
白銀（シルバー）そして、黄金（ゴールド）へと目指して。

次回もご期待下さい。

関連コースの詳細情報はこちら：

RO20: Ruby 技術者認定試験 Silver (RYO-100) 対策
http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=675&m=8337&v=5704aca2

RO21: Ruby 技術者認定試験 Gold (RYO-200) 対策
http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=676&m=8337&v=0f1a058a

「Ruby/Ruby on Rails/技術者認定試験」関連コース
http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=677&m=8337&v=8e3f60ad

Ruby 技術者認定試験 合格者の声
http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=678&m=8337&v=6d2a6b64

資料ダウンロード（Rubyの最新動向と公式資格教科書のご紹介）
http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=679&m=8337&v=ec0f0e43

■お問合せ・ご意見・ご感想は◆ＣＴＣ教育サービス◆窓口まで――――――――
シーティーシー・テクノロジー株式会社　エデュケーションサービス部
E-Mail： kyouiku@ctc-g.co.jp / TEL： 03-5712-8701

●外部委託について
弊社はメールニュース配信業務をシーティーシー・ビジネスサービス
株式会社（ＣＴＣ100%出資子会社）に委託しております。
●本メールマガジン編集・配信責任者
ＣＴＣＴ　エデュケーションサービス部　部長　篠原　義一
所在地：東京都世田谷区駒沢1-16-7　ctc_edu_mail@ctc-g.co.jp

●個人情報保護方針

ＣＴＣグループの個人情報保護方針につきましては下記ＵＲＬをご参照ください。

http://www.ctc-g.co.jp/guide/security_policy.html?top=b_security

●配信中止及びお問合せ対応について

・「ＣＴＣ教育サービス　News&Topics」の配信が不要な場合には、下記ＵＲＬから配信停止のお手続きを行ってください。

https://krs.bz/ctc-g/m/ctc-education

・当社では、複数種類のメールマガジンやメールニュースを発行しております。大変お手数ではございますが、ＣＴＣ教育サービス以外からのメール配信についての受信拒否および個人情報に関するご要求は、各メールに記載の個々の連絡先宛にそれぞれご連絡をお願いします。

・受信者ご本人様からの個人情報の開示・訂正・削除に関するご要求は、随時ctc_edu_mail@ctc-g.co.jpにてお受けいたします。